

開催地名	神奈川県二宮町
開催日時	令和5年10月10日（火） 13:15～15:15
開催場所	二宮町民センター
語り部	館合 裕之（青森県八戸市）
参加者	二宮町職員、二宮町消防署職員 130名
開催経緯	当町は、関東大震災以降に大規模な災害に見舞われていないことから、災害対応の経験が乏しく、実際に災害が発生した際に適切に動くことができるか不安があり、その対策として地方公務員で災害対応を実際に行った職員の経験を聞く機会が必要と考えていた。
内容	（１）はじめに 私は、平成6年に八戸市役所に入庁し、東日本大震災の時は、防災危機管理課に在籍し、災害対策本部の物資担当に従事した。 現在は、八戸市福祉部高齢福祉課に勤務しながら、八戸市内の小・中学校等での防災教室も行っている。その際、実際の津波の恐ろしい映像による子ども達のPTSDへの配慮として、津波の高さだけが説明出来る「津波タペストリー」を作成した。また、作成アドバイザーとして、学校で使用している「防災ノート」の制作にも携わっている。 （２）東日本大震災前後 私が担当した主な業務として、平成20年に「八戸市国民保護計画」を作成し、また気象・災害・火災・防犯情報などの電子メール「ほっとスルメール」の配信開始、平成22年に市職員が不在の状況での使用を想定した「八戸市避難所運営マニュアル」の作成、震災後の平成24年には市内各地への「津波浸水高表示」や「標高表示」の設置等が挙げられる。 住民は「避難所への幻想」「防災無線への幻想」「マニュアルへの幻想」の3つの幻想をいただいている。例えば、避難所は、災害でも壊れず、停電もせず、1日3食、時間どおり温かい食事が出る、防災無線は災害時に瞬時に必ず放送される、マニュアルは全ての災害に対応できる、などである。いずれも全て幻想である。例えば、マニュアルに関しては、「完成したマニュアル」ではなく「マニュアルづくり」に意味がある。 自治体職員の使命とは、災害で死なない・怪我をしないことである。そのためには、家屋の耐震化・家具の転倒防止などの準備が必要である。 災害対応の原則として、「空振りでも『安全』の側に舵を切れ!」、「迷ったら『やれ!』」、「決断は『巧遅』より『拙速』」、が重要である。『拙速』でも後で修正すれば良い。

災害は、夜間・早朝・土日など、自治体職員の勤務時間外に発生することが多いと感じるが、過去の主な地震でも8割が勤務時間外に発生しているし、勤務日数と勤務時間の計算からも約78%の確率で勤務時間外に起きると推測できる。災害は、勤務時間外に発生するものだと考えておくべきである。

(3) 八戸市役所の72時間(抜粋)

<平成23年(2011年)3月11日(金)>

14:46 東北地方太平洋沖地震発生(強い揺れが6分以上)

14:53【ほっとスルメール】津波警報「青森県太平洋沿岸1m」自動配信

14:57【ほっとスルメール】地震警報「八戸市震度5強」自動配信

15:05【本部】避難指示発令・避難所開設指示・防災無線放送指示

15:05【本部】津波到達情報

16:57【気象庁】八戸市で津波4.2m以上(実際は市内最大約10m)

23:00【本部】避難者数9,063人

23:35【物資担当】本部より「2,500食の弁当が到着する」→誤報「配布済み」

<平成23年(2011年)3月12日(土)>

00:00【本部】避難者数9,257名(最大)

20:05【本部】市内の一部で停電復旧

21:00【物資担当】群馬県伊勢崎市から特例市の災害協定に基づく支援が到着

※これ以降、避難者全員へ毛布が配付され、3食の提供が可能となった(ただし配達遅延発生)

<平成23年(2011年)3月13日(日)>

06:00【物資担当】新潟県から物資受け入れ

18:02【本部】避難指示解除決定

18:40【M公民館】市の要員不足により、避難所担当職員が24時間勤務へ。

※この日の夜、防災管理課職員の連続勤務が終わり交代制へ移行

<平成23年(2011年)3月14日(月)>

08:15 八戸市庁、通常窓口業務開始

12:30【本部】避難指示解除

15:00【本部】第6回災害対策本部員会議開催

※このようにして八戸市役所の長い72時間が終わった。

(4) 最後に

災害発生直後の第1回災害対策本部員会議では、一刻も早く避難指示や避難所開設の指示を出すことが重要である。特に避難指示は、職員が配置されたか否かに関わらず、住民に命を守る行動をとってもらうためにも重要である。

一刻も早い情報提供は自治体の使命である。その際、防災無線よりも電子メールが有効であった。ただし、情報の錯綜が起こり得るので注意が必要である。

災害発生後、防災担当課は、首長の失言・失態対策や、災害対策本部員会議運営、会議資料作成、マスコミ対応、県への報告などで忙殺される。選挙と災害対応は、全庁的な対応が必要である。

二宮町最大の危機は「災害対応は防災安全課が行えばいい」という職員一人一人の意識である。災害時は「オール二宮」で対応し、災害発生時は是非「二宮の奇跡」と呼ばれることを期待する。



開催地より

災害対応は、事前にどれだけ準備できたか、シミュレーションしたかが重要であるとともに、関係団体や住民組織との普段からのつながりを作っておくことで、災害時に迅速な行動につながることが実感できた。また、同じ公務員が体験した話は、共有できる部分が多く、今後の防災体制の強化につなげていきたい。